

平成28年度事業報告

1. 定時社員総会

平成28年6月17日（金） 午後5時00分～午後6時00分 （AP 東京八重洲通り）

・臨時社員総会

平成28年4月27日（水） 午後1時15分～午後2時45分 （富山国際会議場）

2. 理事会

平成28年度理事会役員

	M系	E系
理事長	杉町 勝	
副理事長	山家 智之	大城 理
総務		花房 昭彦
会員	増山 理	
財務	村垣 善浩	
学術部	橋爪 誠	
支部		山森 伸二
規約（制度改革）		佐久間 一郎
将来計画	松村 泰志	
企画（活性化）	山家 智之	
国際		椎名 毅
編集		中沢 一雄
教育	阿部 裕輔	
ME技術教育		嶋津 秀昭
選奨		中沢 一雄
選挙管理	松本 健郎	
広報	守本 祐司	
監事	篠原 一彦	岩田 彰
		牧川 方昭
総務委員会	山家 智之	花房 昭彦
財務委員会	村垣 善浩	山森 伸二
	阿部 裕輔	
国際委員会		椎名 毅
		佐久間 一郎
編集委員会	松村 泰志	大城 理
教育委員会	村垣 善浩	大須賀美恵子
ME技術教育委員会	守本 祐司	嶋津 秀昭
CE委員会		嶋津 秀昭
		大須賀美恵子
ME研究推進委員会	橋爪 誠	松本 健郎
医用生体工学研究基盤検討委員会	松村 泰志	山森 伸二
選奨委員会		中沢 一雄
		松本 健郎
生体医工学科活性化委員会		花房 昭彦
選挙管理委員会	中村 真人	花房 昭彦
広報委員会	守本 祐司	中沢 一雄
大会在り方委員会	山家 智之	椎名 毅

利益相反委員会	中村 真人	
公益法人化対応WG	杉町 勝	
定款改定WG	阿部 裕輔	
医学科ME教育WG	阿部 裕輔	佐久間 一郎
シンポジウムWG	増山 理	
	橋爪 誠	
		大城 理

理事会開催 8回（4/25、5/28、8/5、10/14、1/11、3/3、3/31、5/3）

3. 第55回大会

会 期：平成28年4月26日（火）～28日（木）
 会 場：富山国際会議場、富山市民プラザ
 大 会 長：中村 真人（富山大学）

4. 生体医工学シンポジウム2016

会期：平成28年9月17日（土）～18日（日）
 会場：旭川市大雪クリスタルホール国際会議場
 組織委員長：竹内 文也（旭川医科大）

5. 会員現状

	平成28年3月末現在	平成29年3月末現在	増減
名誉会員（名）	61	62	1
正会員（名）	1,722	1,677	-45
準会員（名）	191	219	28
維持会員（団体 [口]）	13 [18口]	13 [18口]	

◆平成28年度物故会員

名誉会員：星宮 望（平成29年1月25日）

正 会 員：米澤 卓実（平成28年8月2日）西宮 肇（平成29年1月13日）

6. 機関誌発行

- （1）「生体医工学」第54巻第2号（通巻号数282）～第55巻第1号（同286）
 （2）Advanced Biochemical Engineering (ABE) volume 5

7. 平成28年度専門別研究会

	名 称	氏 名	回数
1	次世代治療技術開発のための細胞組織・分子機能の計測・制御研究会	石原 美弥	4
2	精神・睡眠医療とME研究会	植野 彰規	1
3	ニューロ・インフォマティクスにおけるME研究会	満洲 邦彦	4
4	バイオメカニクス研究会	坂本 信	4
5	BME on Dementia 研究会	志村 孚城	3
6	次世代内視鏡技術研究会	渡部 健二	4
7	未来のバイオメディカルデザイン研究会	生田 幸士	4

8	ナノテクノロジーと物理エネルギーを融合した標的化診断治療研究会	守本 祐司	1
9	医療機器に関するレギュラトリーサイエンス研究会（略称：RS研究会）	村垣 善浩	2
10	ニューロリハビリテーション・ロボティクス研究会	山本紳一郎	0
11	マルチモーダル脳情報応用研究会	岩木 直	3
12	医療電磁環境研究会	廣瀬 稔	4
13	生体医用画像研究会	佐藤 嘉伸	7
14	Active agingを支援するバイオメディカル工学研究会	酒谷 薫	1
15	ユビキタス情報メディアと医療システム研究会	保坂 良資	3
16	生体信号計測・解釈研究会	百瀬 桂子	2
17	fNIRS (functional near- infrared spectroscopy) 計測・解析技術研究会	江田 英雄	4
18	育児工学未来研究会	小谷 博子	3
19	非ME臨床研究会	白石 泰之	4

専門別研究会協議会を平成28年4月26日に、富山国際会議場で開催。

8. 他団体との共催の研究会

MEとバイオサイバネティクス研究会（電子情報通信学会との共催）

委員長：小林 哲生（京都大学）

副委員長：福岡 豊（工学院大）

9. 支部活動

（1）北海道支部（支部長：岡本 英治，支部幹事：西村 生哉）

1）第55回北海道支部・支部大会学術集会開催日・開催会場

日時：2016年10月29日（土）13:30～16:40

場所：北海道大学大学院情報科学研究科A21教室

（第96回北海道医学会生体医工学分科会として開催）

2）支部総会開催日・開催会場

日時：2016年10月29日（土）16:40～

場所：北海道大学大学院情報科学研究科A21教室

3）その他の行事（行事名称・開催日・開催会場）

・生体医工学シンポジウム2016（日本生体医工学会，日本生体医工学会全支部との共催）

会期：2016年9月17日（土）、18日（日）

会場：旭川市大雪クリスタルホール国際会議場（北海道旭川市神楽3条7丁目）

・第50回生体医工学研究会（北海道臨床工学技士会との共催）

テーマ：これからの医工連携を考えるー生体医工学と臨床工学ー

開催日：2016年11月13日（日）13:30～15:00

開催会場：北海道大学 学術交流会館

4）総括、その他通信

特になし。

（2）東北支部（支部長：西條 芳文 支部幹事：松永 忠雄）

1）支部総会開催日：平成29年1月21日（土）

支部総会開催会場：東北大学 カタールサイエンスキャンパスホール

2) その他の行事

- ・第 50 回日本生体医工学会東北支部大会
(大会長：西條 芳文，日本生体医工学会東北支部主催)
平成 29 年 1 月 21 日 (土)，東北大学 カタールサイエンスキャンパスホール

3) 総括，その他通信

平成 29 年 1 月 21 日 (土) に，東北支部大会と総会を東北大学 カタールサイエンスキャンパスホールにて行った．2 件の特別講演として，仁田新一氏 (東北大学・名誉教授、日本統合医療学会・理事長) による「東北大学における医工学研究の黎明期から現在まで～特に人工臓器研究を中心に～」，続いて，江刺正喜氏 (東北大学マイクロシステム融合研究開発センター (μ SIC) センター長) による「低侵襲医療用 MEMS センサ」と題した講演が行われた．東北における医工連携の黎明期のエピソードから微細加工技術を用いた最新の小型センサについての大変有意義な講演内容であり参加聴講者に好評であった．また，一般演題は 26 件あり，4 セッションに分かれ大変活発な質疑応答が行われた．

(3) 関東支部 (支部長：土肥 健純 支部幹事：桑名 健太)

- 1) 支部総会開催日：2016 年 11 月 19 日 (土)
- 2) 支部総会開催会場：東洋大学 川越キャンパス 2 号館 2105 教室
- 3) その他の行事 (日)行事名称 (月)開催日 (火)開催会場
 - ・第 25 回フロンティア講演会共催：2016 年 3 月 8 日～9 日、東京工科大学 蒲田キャンパス
 - ・関東支部若手発表会 2016 主催、2016 年 11 月 19 日 (土)、東洋大学 川越キャンパス 演題数 64 件、参加者 93 名であった。実行委員長：山内康司先生 (東洋大学理工学部生体医工学科)
- 4) 総括，その他通信
関東支部では、若手研究者の研究の活性化を目的として、今後も若手研究者発表会などの活動を続けていく予定である。

(4) 東海支部 (支部長：長谷川 純一)

- 1) 支部総会開催日：平成 28 年 10 月 22 日 (土)
- 2) 支部総会開催会場：株式会社スズケン本社ビル 2 階 (名古屋市)
- 3) その他の行事
 - ・日本生体医工学会東海支部 50 周年記念学術講演会
開催日：平成 28 年 7 月 9 日 (土)
開催会場：キャッスルプラザ (名古屋市)
講師：岩田 彰，臼井支朗
 - ・東海支部理事会・役員会
開催日：平成 28 年 10 月 22 日 (土)
開催会場：(株)スズケン本社ビル 2 階 (名古屋市)
 - ・第 31 回日本生体医工学会東海支部学術集会
開催日：平成 28 年 10 月 22 日 (土)
開催会場：(株)スズケン本社ビル 2 階 (名古屋市)
大会長：磯田治夫 (名古屋大学 脳とこころの研究センター)

4) 総括，その他通信

今年度は、支部設立 50 周年を記念し、当支部に長年貢献された岩田彰氏 (名古屋工業大学プロジェクト教授) と臼井史朗氏 (豊橋技術科学大学名誉教授) による学術講演会を名古屋市内のホテルで開催した。各講演は、講師自身の研究を中心に各時代の体験やトピックスを交えながら 50 年間の歴史を振り返るという興味深い内容で、その後の質疑応答でも活発な意見交換が行われた。

支部総会および支部学術集会は、昨年に引き続き名古屋市内で開催した。学術集会では、血管生物医学研究の第一人者である安藤譲二氏 (獨協医科大学医学部特任教授) の特別講演 (演題：

血管メカノバイオロジー：内皮細胞の血流センシングを介した循環機能調節）があったほか、一般演題も30件（7セッション）あり、いずれのセッションでも活発な討論が行われた。

支部運営では、支部規約の改正を行った。改正内容には、役員名称の変更（理事→幹事）、集会名称の変更（支部学術集会→支部大会）、および、支部長選任手続きの見直しなどが含まれる。また、支部選奨規程の新設へ向けた検討を開始した。

（5）北陸支部（支部長：中村真人 支部幹事：中島一樹）

①支部総会開催日：平成28年12月3日（土）

②支部総会開催会場：富山駅前 CiC ビル5階

〒930-0002 富山県富山市新富町1-2-3

③その他の行事

1）平成28年度電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティックス研究会（MBE）（共催）

平成28年5月21日（土） 富山大学 工学部

2）平成28年度電気関係学会北陸支部連合大会（主催）

平成28年9月13日（火）、14日（水） 福井工業大学 福井キャンパス

3）第1回評議員会

平成28年12月3日 富山駅前 CiC ビル5階 小会議室

4）特別講演（主催）

平成28年12月3日（土）、富山駅前 CiC ビル5階 多目的ホール

講師：富山大学医学部第二内科

教授 絹川 弘一郎 先生

演題：「心臓病治療に活かされる医療工学 ―補助人工心臓治療を中心に―

5）支部大会（主催）

平成28年12月3日（土）、富山駅前 CiC ビル5階 多目的ホール

一般演題 9題

6）支部大会研究奨励賞 表彰式

平成28年12月3日（土）、富山駅前 CiC ビル5階 多目的ホール

④総括、その他通信

1）電気関係学会北陸支部連合大会 北陸支部大会 表彰

生体工学関連セッションにおいて、優秀な研究成果を発表した研究者に対して「優秀論文発表賞」を贈る。7名が審査に応募し、厳正な審査の結果、以下の2名が表彰された。

【優秀論文発表賞】 2名

・東佑樹（福井大学）、共著者：長宗高樹，黒田良祐

タイトル「6軸慣性センサを用いた歩行中の方向転換に関する左右方向の体の姿勢の推定」

・山田真大（福井大学）、共著者：小越康宏，小越咲子，武澤友広，三橋美典

タイトル「言語聴覚士のための表情トレーニングシステムの開発」

2）日本生体医工学会 北陸支部大会 表彰

支部大会において将来性が期待できる優秀な研究成果を発表した39歳以下の若手研究者に対して「研究奨励賞」及び「研究敢闘賞」を贈る。厳正な審査の結果、12名の対象者の中から以下の3名が表彰された。

【研究奨励賞】 2名

・氏名（所属）吉池成弥（富山大学）、共著者：小倉亮介，土山祥之，森光一，寺口博也，中村真人

タイトル「腎臓機械灌流実験モデルの開発：初期灌流の検討」

・氏名（所属）坂下風浩（金沢大学）、共著者：岡崎大輔，野川雅道，内藤 尚，田中志信

タイトル「容積振動型外耳道内無侵襲血圧計測法の開発」

【研究敢闘賞】 1名

・氏名（所属）佐々木宏時（金沢大学）、共著者：長井周平，小松崎俊彦，田村昌也，松本 勲，野川雅道，内藤 尚，田中志信

タイトル「磁気粘弾性エラストマーを用いた体腔鏡下手術支援多関節

(6) 関西支部(支部長：楠岡 英雄 支部幹事：岡山 慶太, 木戸 倫子, 中尾 恵, 山田 憲嗣)

①支部総会開催日：平成 28 年 12 月 3 日 (土)

②支部総会開催会場：大阪大学 基礎工学部 国際棟 (大阪大学 豊中キャンパス)

③その他の行事

1) 生体医工学シンポジウム 2016

日時：2016 年 9 月 17 日 (土), 18 日 (日)

場所：大雪クリスタルホール国際会議場 (北海道旭川市)

2) 平成 28 年度日本生体医工学会関西支部 講演会

バイオメクフォーラム 21 研究会 第 83 回 研究会と共催

日時：2016 年 12 月 3 日 (土)

場所：大阪大学 基礎工学部 国際棟 (大阪大学 豊中キャンパス)

3) バイオメクフォーラム 21 研究会

第 80 回 研究会

日時：2016 年 4 月 16 日 (土)

場所：近畿大学

第 81 回 研究会

日時：2016 年 7 月 9 日 (土)

場所：大阪大学 豊中キャンパス シグマホール

第 82 回 研究会

日時：2016 年 10 月 8 日 (土)

場所：京都大学医学部 杉浦地域医療研究センター

4) SICE ライフエンジニアリングシンポジウム／協賛

日時：2016 年 11 月 3 日 (木) ～5 日 (土)

場所：大阪国際交流センター

5) 平成 28 年度 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会

日時：2017 年 1 月 13 日 (金)

場所：大阪大学医学部・銀杏会館 (吹田市山田丘 2-2)

④総括, その他通信

1) 生体医工学シンポジウム 2016

主催：日本生体医工学会, 同学会北海道支部, 東北支部, 関東支部, 甲信越支部, 北陸支部, 東海支部, 関西支部, 中国四国支部, 九州支部

組織委員長：竹内文也 (旭川医科大学)

副委員長：西川敦 (信州大学)

日時：平成 28 年 9 月 17 日 (土), 18 日 (日)

場所：旭川市大雪クリスタルホール国際会議場

演題数：164 題

参加者：274 名 (各種委員会委員・一般 165 名, 学生 109 名)

■シンポジウム論文

生体医工学 (申込み 25 件) > (実際の提出は 21 件)

採択 3 編, 査読中 10 編, 返却 6 編, 取り下げ (未提出含) 6 編

Advanced Biomedical Engineering (ABE) (申込み 28 件) >> (実際の提出：20 件)

採択 2 編, 査読中 12 編, 返却 6 編, 取り下げ (未提出含) 8 編

※11 月 27 日 現在

■ベストリサーチアワード

ベストリサーチアワード審査対象論文：23 編

(うち「生体医工学」に投稿 12 編, 「ABE」に投稿 11 編)

投稿論文の中から、シンポジウム選奨委員会による審査に基づき4件が選ばれた。

- Chikahiro Imashiro, Yuta Kurashina, Kenjiro Takemura
"Cell patterning method using resonance vibration of metallic cell cultivation substrate",
- Masako Hasegawa-Ohira, Kazumichi Suguri, Shusaku Nomura
"The dehydroepiandrosterone awakening response as a possible index of subjective sleep quality",
- Mikie Nakabayashi, Yumie Ono
"Detection of blood flow speed in shallow and deep tissues using Diffuse Correlation Spectroscopy"
- 長谷栄治, 南川丈夫, 佐藤克也, 米倉大介, 高橋光彦, 安井武史
"第2高調波発生光(SHG)顕微鏡を用いた腱修復の観察"

■ ベストレビューワーアワード

シンポジウム編集委員でない査読者の中から、シンポジウム選奨委員会による審査に基づき、以下の4名の査読者が選ばれた。

- 吉田 久 先生(近畿大学)
- 井村誠孝 先生(関西学院大学)
- 渡邊高志 先生(東北大学)
- 香川正幸 先生(首都大学東京)

2) 日本生体医工学会関西支部講演会

主催：日本生体医工学会関西支部

共催：バイオメクフォーラム21研究会

世話人：大城 理(大阪大学)

日時：平成28年12月3日(土) 13:50-17:20

場所：大阪大学基礎工学部 国際棟 1F シグマホール

プログラム：

1. 「循環器MRIの現状」

松田哲也(京都大学 大学院情報学研究科 システム科学専攻 教授)

2. 「Vascular Health Science: 光超音波イメージング法の臨床展開」

椎名 毅(京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授)

3. 「PETを用いたアルツハイマー病診断」

木村裕一(近畿大学 生物理工学部 システム生命科学科 教授)

(7) 中国・四国支部(支部長：木内 陽介)

1) 支部総会

開催日：平成28年10月15日(土)

開催会場：徳島大学常三島キャンパス工業会館メモリアルホール

2) その他の行事(行事名称・開催日・開催会場)

① 第39回支部大会

平成28年10月15日(土)

徳島大学常三島キャンパス工業会館メモリアルホール

② 岡山県医用工学研究会・平成28年度第1回セミナー

平成28年6月24日

岡山大学鹿田キャンパス内マスカットキューブ(岡山市)

③ 岡山県医用工学研究会・平成28年度第2回セミナー

平成28年10月27日

岡山大学鹿田キャンパス内マスカットキューブ(岡山市)

- ④ 岡山県医用工学会 平成28年度第3回シンポジウム
平成29年2月9日
岡山大学鹿田キャンパス内臨床講義棟（岡山市）

3) 総括, その他通信

本年度は徳島地区で支部大会を開催し、他に共催研究会を3回開催した。
いずれの会でも活発な討論と研究交流が行われた。

(8) 九州支部（支部長：井上 勝裕 支部幹事：岡本 剛）

1) 支部総会開催日・開催会場

平成28年3月5日（土）・佐賀大学 本庄キャンパス 理工学部大学院棟
平成29年3月4日（土）・九州大学 伊都キャンパス 工学部西講義棟

2) その他の行事

①2016年日本生体医工学会九州支部学術講演会・

平成28年3月5日（土）・佐賀大学 本庄キャンパス 理工学部大学院棟

②2017年日本生体医工学会九州支部学術講演会・

平成29年3月4日（土）・九州大学 伊都キャンパス 工学部西講義棟

③生体医工学シンポジウム2016（関東、北海道、甲信越、関西、中国四国の各支部と共催）

平成28年9月17日、18日・旭川市大雪クリスタルホール国際会議場

3) 総括, その他通信

九州支部では、公益社団法人化に対応するため、これまで2月から翌年1月までとしていた支部会計年度を、平成28年度は2月から翌年3月（14ヶ月）、それ以降を4月から翌年3月までとした。九州支部では、毎年3月に支部学術講演会と総会を開催しているため、平成28年度は2回の支部学術講演会と2回の総会を実施することとなった。

支部規約の改定を行い、支部長候補者の選出規則と支部役員の役職名称の変更を行うこととなった。

10. 国際委員会

委員長：椎名 毅

委員：佐久間 一郎，石原 謙，伊良皆 啓治，小笠原 康夫，木村 裕一，白石 泰之，
神保 泰彦，南部 雅幸，中村 亮一，野川 雅道，松本 健郎，湊 小太郎，
村山 嘉延，吉田 正樹

顧問：梶谷 文彦，菊地 眞，砂川 賢二，田村 俊世，堀 正二

1) World Congress の日本誘致の準備

2024年のWorld Congressの日本開催に向けた日本医学物理学会との連携の取り組みとして、第111回日本医学物理学会学術大会（4月17日 於 パシフィコ横浜）にて、「日本生体医工学会との交流セッション」の企画に協力し、本学会からは佐久間理事長による本学会活動の概要と、村垣理事による研究トピックスの紹介を行った。また第55回日本生体医工学会大会（4月26日 於 富山国際会議場）にて「JSMBE & JSMP 交流セッション」を企画し、日本医学物理学会の活動紹介を行うとともに、World Congressの誘致における意識の高揚を図ることに努めた。

11. 編集委員会

組織

生体医工学編集委員長：横澤 宏一（生体医工学 担当），福岡 豊（ABE 担当），木村 裕一（渉外担当）

副編集委員長（両誌共通）：大城 理，中尾 光之，松村 泰志，南部 雅幸

編集幹事：永岡 隆

編集担当理事：中沢 一雄

2016 年度の活用内容

本年度は以下の活動を行った。

- 1) 生体医工学は、第 54 巻 1 号から 5 号と、第 55 回日本生体医工学会大会での発表を収載した電子版の別冊一つを出版した。
- 2) 生体医工学では、通常投稿として 14 編の投稿があり、うち 9 本が掲載され、収載率は 64%であった。また、生体医工学シンポジウム 2016 での論文として 21 編の投稿があり、12 編が掲載され、収載率は 57%である。双方を合わせると、35 編の投稿に対して 21 編が収載されており、収載率は 62%であった。
- 3) ABE は、第 5 巻を出版した。
- 4) ABE では、通常投稿として 17 編の投稿があり、5 編が収載され、収載率は 29%であった。また、生体医工学シンポジウム 2016 の論文として 20 編の投稿があり、12 編が収載され、収載率は 60%であった。双方を合わせると、37 編の投稿に対して 17 編が収載されており、収載率は 46%であった。
- 5) 査読及びインパクトファクター取得に向けた体制を強化するために、各誌を担当する編集委員長 2 名、渉外を担当する編集委員長を 1 名の、3 名体制とした。更に、副編集委員長は 4 名体制とした。
- 6) ABE のインパクトファクターの取得を目的として、PMC への収載の申請を完了した。
- 7) トムソンロイター社がインパクトファクター取得の直前の段階にある雑誌を主として収載している論文誌データベースである、Emerging Sources Citation Index (ESCI) への ABE の収載が内定した。ESCI に収載されることで ABE の露出度が向上すると共に、インパクトファクターの審査が自動的に実施される。
- 8) ABE 掲載の論文のうち 5 本を、トムソンロイター社が提供するメールによる論文紹介サービスを利用して、関連領域の研究者に対して宣伝することで、ABE への引用の勧奨を実施した。
- 9) ABE の露出度を向上するために、Elsevier 社が提供する学術雑誌のデータベースである Scopus への収載を申請した。
- 10) ABE の認知度の向上とアクセス数の増加を目的として、ABE のウェブページの改修を完了した。
- 11) 英文論文を書き慣れない研究者に対して ABE への投稿を勧奨するために、ABE 投稿補助制度(略称、SAABE)を、生体医工学シンポジウム 2016 で試行した。
- 12) 論文投稿の勧奨、英語論文執筆の勧奨、生命倫理や出版倫理の普及を目的とした教育講演を、第 55 回日本生体医工学会大会及び生体医工学シンポジウム 2016 で実施した。
- 13) 編集委員会を、第 55 回日本生体医工学会大会にて開催した。また、随時メールを用いた審議を行っている。

1 2. 教育委員会

担当理事：阿部 裕輔

委員長：大須賀 美恵子

副委員長：村垣 善浩

委員：黒田 嘉宏、嶋津 秀昭、石原 謙、吉田 正樹、山家 智之、清水 孝一、
岡田 英史、木村 裕一、牧川 方昭、渡部 祐司

(1) 2016 年生体医工学サマースクール（第 14 回）を開校した。

主催：日本生体医工学会

協賛：電気学会 電子・情報・システム部門・医用生体工学技術委員会、

日本機械学会 バイオエンジニアリング部門、計測自動制御学会 ライフエンジニアリング部門、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会、IEEE EMBS Japan Chapter

運営：担当理事 大須賀 美恵子（大阪工業大学）

実行委員（準備と当日サポート）

黒田 嘉宏（大阪大学、委員長）、荒船 龍彦（東京電機大学）、永岡 隆（近畿大学）

実行委員（オンライン会議に参加）

岡田 志麻（近畿大学）、塩澤 成弘（立命館大学）、吉光 喜太郎（東京女子医科大学）

運営協力：Healthcare Hackathon（以下 HH、<http://healthcarehackathon.jp>）

期間：2016 年 8 月 9 日（火）～10 日（水）

場所：マホロバ・マインズ三浦（<http://www.maholova-minds.com/>）

参加者：会員（主催学会員・協賛学会学生会員）4 名、一般参加者 18 名の計 22 名

内容：

HH の協力を得てヘルスケアハッカソンという新たな試みを行い、医療現場における問題提起に基づいてサービスのアイデアを練ってプロトタイピングを行うという、課題解決型の思考力や実践力を養うことを目的としたスクールを開校した。テーマはアルコール関連死、特に依存症についてとし、初日はアイスブレイクのあと、HH のスタッフでもある鈴木裕介氏より話題提供（現状、問題点の解説）を受けた後、個人ブレインストーミングとアイデアのプレゼン、アイデアを選抜してグループ構成（結果として 5 グループ）、アイデアのブラッシュアップとプロトタイピングをグループで実施した。2 日目はグループでの活動状況の確認とコメント、中間発表を経て、最終プレゼンテーション、表彰を行った。参加者の評価が高く、次年度も同様の企画を望む声が多かった。運営側も HH より多くのノウハウを学んだ。

13. ME 技術教育委員会

委員長：嶋津 秀昭

委員：石原 謙、石山 陽事、稲田 紘、植野 彰規、上松 弘明、大内 克洋、大塚 勝哉、大庭 和夫、小野 哲章、加納 隆、小久保謙一、小山 裕徳、佐藤 俊一、白井 康之、高倉 照彦、高橋 誠、竹澤 真吾、立花 博之、津坂 昌利、戸畑 裕志、内貴 猛、長倉 俊明、中島 章夫、南部恭二郎、平井 紀光、廣瀬 稔、福長 一義、星野 洋、堀 純也、堀内 邦雄、水島 岩徳、水谷 好成、峰島三千男、渡邊 晃広

（1）第 22 回第 1 種 ME 技術実力検定試験

A) 受験希望者用講習会

① 東京会場（帝京平成大学）

2016 年 4 月 10 日（日） 受講者 116 名

② 大阪会場（新梅田研修センター）

2016 年 4 月 10 日（日） 受講者 78 名

③ 札幌会場（北海道大学）

2016 年 4 月 17 日（日） 受講者 28 名

④ 名古屋会場（名古屋大学）

2016 年 4 月 17 日（日） 受講者 26 名

⑤ 福岡会場（福岡県中小企業振興センター）

2016 年 4 月 24 日（日） 受講者 27 名

B) 第 1 種試験

① 実施日 2016 年 6 月 19 日（日）

② 実施会場 札幌：北海道大学

東京：帝京平成大学

名古屋：名古屋大学

大阪：コングレコンベンションセンター

福岡：代々木ゼミナール福岡校

③ 受験者（かつこ内は応募者数） *科目受験者数含む総数

札幌：37 名（37 名）

東京：200 名（220 名）

名古屋：49 名（50 名）

大阪：158 名（175 名）

福岡：65 名（73 名）

合計：509 名（555 名）

- ④合格者数（カッコ内は合格率）
 ※第8回より「科目合格制」を導入
 ・総合合格者
 114名（22.4%）
 ・「ME基礎論」合格者
 21名（4.2%）
 ・「ME機器論」合格者
 29名（6.0%）

(2) 第38回第2種ME技術実力検定試験

- ①実施日 2016年9月4日（日）
 ②実施会場、受験者（カッコ内は応募者数）
 札幌：札幌医学技術福祉歯科専門学校 381名（392名）
 仙台：東北工業大学 280名（302名）
 東京：東京電機大学 2,371名（2,508名）
 名古屋：名古屋大学 599名（622名）
 大阪：コングレコンベンションセンター 1,217名（1,294名）
 岡山：岡山理科大学 806名（840名）
 福岡：代々木ゼミナール福岡校 977名（1,015名）
 合計： 6,631名（6,973名）
 ③合格者数（カッコ内は合格率）
 全国：1,925名（29.0%）

(3) 第38回ME技術講習会（財団法人医療機器センターと共催）

- A) テーマー医療機器安全基礎講習会－
 B) 実施会場、実施日および受講者数
 ①沖縄会場（沖縄産業支援センター）
 2016年6月18日（土） 99名
 ②仙台会場（ハーネル仙台）
 2016年6月26日（日） 174名
 ③福岡会場（九州大学医学部百年講堂）
 2016年7月2日（土） 304名
 ④大阪会場（大阪国際会議場）
 2016年7月3日（日） 336名
 ⑤東京会場（大田区産業プラザPiO）
 2016年7月9日（土）、7/30（土）（2回開催） 465名
 ⑥札幌会場（北海道経済センター）
 2016年7月24日（日） 136名
 ⑦名古屋会場（ウィング愛知）
 2016年8月7日（日） 170名

14. クリニカルエンジニアリング委員会

委員長：嶋津 秀昭
 委員：小野 哲章、大須賀美恵子、加納 隆、山越 憲一、篠原 一彦、堀川 宗之、
 野村 真理、峰島三千男、星野 洋、石原 謙、小山 裕徳、中島 章夫、
 石山 陽事、堀内 邦雄

(1) 臨床ME専門認定士合同認定委員会（日本医療機器学会と合同）

- ・第18回認定者 68名（総合計：1040名）
- ・第11回認定更新者 87名
- ・更新講習会を開催

第17回講習会	2016年	6月23日（木）	大阪	大阪国際会議場	受講者数	82名
		10月23日（日）	東京	東京大学	受講者数	112名

(2) ME技術教育委員会の活動支援

・第1種・第2種ME技術検定試験

15. 医用生体工学研究基盤検討委員会

委員長：松村 泰志

副委員長：椎名 毅

委員：山家 智之，佐久間 一郎，大城 理，木村 裕一，嶋津 秀昭，橋爪 誠，石原 謙，
山森 伸二

医用生体工学、先端医療技術研究開発に関する関連政策動向の調査を行った。

16. 広報委員会

委員長：守本 祐司

副委員長：井村 誠孝，中沢 一雄

委員：中村 真人，長倉 俊明，成瀬 恵治，松井 岳巳，津坂 昌利，山田 憲嗣，
山下 和彦，中島 章夫，福長 一義，吉光 喜太郎

幹事：大川 晋平

学会ウェブサイトのリニューアルを委託する業者選定作業を井村誠孝副委員長を中心に行い、サイエンスウェブに決定した。H29年度1/四半期内にホームページを刷新して以下の重要点につき整備していく。

● 管理の容易さの向上

CMS(コンテンツマネジメントシステム)を導入して、ウェブブラウザ上での更新が可能となり利便性を向上させるとともに、各コンテンツを更新する権限を管理するようにして、発信する情報の質を維持する。

● グローバル化への対応

英語版ウェブサイトを見通しよく構築できる枠組みを整備する。具体的には日本語版ウェブページに対応する英語版ウェブページを必要に応じて拡充できるサイト構成とし、CMSを用いて日本語・英語ページ間の遷移方法を統一する。

● 新しいデバイスへの対応

スマートフォンやタブレットなどの新しいデバイスに対応するために、レスポンスWebデザインと呼ばれる画面のサイズや解像度に応じて柔軟に構成を変えられるデザインを導入する。

17. ME研究推進委員会

委員長：橋爪 誠

副委員長：松本 健郎

委員：浅野 薫，石原 謙，伊良皆 啓治，岡崎 利彦，岡本 英治，北風 政史，木内 陽介，
篠原 一彦，清水 孝一，杉浦 清了，南部 恭二郎，野村 泰伸，姫野 龍太郎，
三浦 裕正，山根 隆志，山家 智之，渡部 祐司

幹事：生田 幸士，長倉 俊明

第55回日本生体医工学会大会に於いてオーガナイズドセッションを企画した。

(平成28年4月27日14:45－16:45 0S19 第一会場)

テーマ：「研究大学における生体医工学分野の専攻、学科の創設意義と戦略」

司会：橋爪誠、生田幸士

演者：井街宏、清水孝一、佐久間一郎、砂川賢二、石原謙、花房昭彦

ME研究推進策について検討し、解決策の一つとして本領域専攻や学科創設の意義と今後の具体的進め方について議論を深めた。

18. ME教育WG

委員長：増山 理

副委員長：橋爪 誠

委員：大須賀 美恵子，岡田 武夫，岡田 美保子，野村 泰伸，橋爪 誠，松村 泰志，
山家 智之，篠原 一彦，長倉 俊明

医学部における ME 教育は他の医学系科目での授業と実習時間の増加のあおりで沈滞の一途である。これを改善するために、ME 教育担当の教員や技官がほとんどいない医学部でも活用できるように、医学部のための ME 教育資料・テキスト等を策定するための準備を進めた。

医学部学生用のテキストについて、医用電子・電気電子・流体力学・医用工学等に研究開発ならびに学生教育での造詣と経験の多い大学ならびに大学院の医学部・工学部教員を中心に、大学医学部での医用工学あるいは医工学等々の講義・実習のカバーすべき内容とその方法・担当の検討を深めた。

19. 生体医工学科活性化委員会

委員長：花房 昭彦

副委員長：吉田 正樹

委員：植野 彰規，内貴 猛，苗村 潔，橋本 成広，林 紘三郎，三田村 好矩，山崎 清之，
森 晃，山内 康司

幹事：山本 衛

1) 目的

全国の生体医工学科と関連学科を連携して、社会一般、特に高校生などの青少年に対して、全国的規模で生体医工学の分野を紹介し、啓蒙をはかるための方策を企画して実施するとともに、共通の問題点の洗い出しと、解決方策について検討する。

2) 委員会

2 回の委員会（4/27，9/17）を開催した。

3) 事業

・進学相談会参加

株式会社さんぼう開催の進学相談会に委員を派遣し、学会ブースで高校生等を対象として分野と学科に関する広報活動（分野と学科の紹介）を実施した。全国で 10 回の相談会で合計 56 名がブースに来訪した。また、これらの相談会で配布された同社の刊行物「新しい学びのすすめ（理学・工学・生命科学系、4 万部印刷・配布）」に、分野紹介の記事（無料）と広告（有料）を掲載した。

株式会社フロムページ社による 2016 年 7 月 9 日開催の夢ナビライブ（東京ビッグサイト）のまなびステーションでブースを設けて参加した（有料）。5 名の委員で 52 名の高校生に対応し、生体医工学分野の紹介を行った。来場した高校生には積極的に話を聞いてもらえた。アンケートの結果も肯定的なものが多数を占めた。このため次年度は大阪会場にも参加する予定にしている。

・分野紹介の書籍の刊行

H26 年 4 月に刊行した高校生や一般社会に分野を紹介するための出版物「先端医療を支える工学－生体医工学への誘い－」（コロナ社新型コロナシリーズ）を、高校を中心に広報活動を展開した。

・就職先拡充のための活動

「医療機器関連業界研究セミナー」を、12 月 19 日に芝浦工業大学大宮キャンパス（4 大学から学生 81 名参加）、12 月 21 日に岡山理科大学（2 大学から学生 47 名参加）、12 月 22 日に大阪電気通信大学四條畷キャンパス（2 大学から学生 26 名参加）にて開催した。アンケート調査によると非常に好評であったことから、このようなセミナーを、継続的に開催することとした。

20. 日本生体医工学会大会あり方委員会

公益法人化に当たり、公益の観点に准じた大会の開催方法、大会開催地の選び方などについて、大会ありかた委員会で審議を進めている

3/3以降の新旧理事の交代に当たって、新たに大会長の選出方法についてディスカッションが進められ、現在、大会長を自薦他薦での公募を進めており、来年度の57回大会の岡本大会長まで決定しており、58回大会は、2019年で、佐久間先生—生田先生のラインで関東支部が担当するという提案があった。2020年度以降は、まず新旧理事に志を伺い、次いで公募に進めるという提案がなされた。

大会の開催地は基本的に理事会で決定し、大会総会で報告する方向性がベターとの意見があり、2年先まで決定しておいて会場を確保する方向性で検討し、大会ありかた委員会で提言していく方向性で申し送りを行う方向性について理事会の一致を見た。

開催を行う大会長について、正社員であれば立候補できる資格があり、名誉会員が立候補する可能性もあるので、「一般会員」でなく「会員」とするべきという意見で調整している。現段階の案では、基本的に公募とするが、大会長の立候補には、評議員の推薦が必要という内規の提案も、あった。全会員に封書で立候補を募る方法論もあるが、HPからの情報発信でいいのではないかという意見もあり、会員メイリングリストで回してはどうかという意見があった。

他の学会では、大会長が、突然死する事例もあり、その場合の保険も兼ねて、基本的に各支部で担当する方向性で進め、大会ありかた委員会としては、参加者の意見の一致を見た。

2019関東、2018北海道、2017東北、2016北陸、2015東海、2013関西、2012九州、2011関東、2010中四国などが、最近の大会は、おおよそ、支部単位でも協力して開催されている。

開催場所について、基本的に、昔は、医学と工学が交代交代？ 東京と地方が交代交代？ の伝統があり、地方の、地域おこしの意味？ もあったが、最近は空文化しており、「たまには東京大阪？」くらいの位置づけにしてはという意見もあった。

IEEE、や、IFMBEとの関連をどうするべきか？ に、ついて議論があった。一応の筋から言えばIFMBEとの関連が深いが、現在は、ABEがあるので、そんなに連携は必須ではなく、これも、「たまに東京大阪など大都市」の時だけ、国際シンポジウムにしてはという意見が強かった。

地方都市で、一人だけ海外の招聘を行っても集客に難があり継続審議とした。

大会のセッションについては、秋のシンポがポスターで、春もポスターだと、差別化が出来ない？ と、いう意見も多かったが、会場は、ポスターの方が安いので、会場と会計の関連で考え直す意見があり、地方と大会長の意向を組みつつ継続的に審議していくこととした。

学会屋さん関連の経費について、年間契約にして、サマースクールやシンポジウムを一貫して安くするという意見もあったが、地方地方の学会屋さんが少ないところもあり、また、利権化すると公益法人として良くないので、今後とも継続して議論していく

公益法人の大会の演題公募法については、UMINが素直だが、ちょっと演題数が足りない？可能性もあり、継続して審議していくこととした。

公益法人化してからの大会参加会費については、いまだに公益化後の指摘が開催経験がないので、議論が難しい。公益化後初の大会となる仙台大会の会計を診て、柔軟に対応していくしかないかもしれない。

大会会計は、全体会計と連結化がなされるので、基本的には、黒字が出ても、赤字が出ても、学会全体が責任を負う必要がある。次回大会としては、連結決算で公認会計士と相談する必要があるが、そのためには、大会の細かい支出を、全て、大会事務局ではなく、学会事務局が担当するのが本筋ではある。

しかしながら、学会事務センターの担当も交代し、物理的に、大会会計を本部が決算することは不可能であり、仙台大会では別途会計を計算し、全体の収益になるようなランチョンなどの決算のみ、大会長でなく、理事長名の領収書とする提案がなされた。

大会あり方の審議の方向性について、今回の議論を、記録に残して、次期理事長、理事会にも、メモ書きとして、申し送ることとした

2 1. 選奨委員会

26 p のように各賞選定委員会を組織し、平成28年度選奨各賞受賞候補者を選定した。

2 2. 選挙管理委員会

委員長：中村 真人

副委員長：山森 伸二

委員：中島 一樹，長谷川 英之，戸田 英樹，金 主賢，塚田 章，高野 博史，小林 直樹

平成29・30年度日本生体医工学会代議員の選挙において、11月17日に開票・集計を行った。316通の投票を開票し、167名の代議員が選出され（次点10名）承諾が得られた167名が平成29年1月11日の理事会で承認された。

また、選出された代議員によって、平成29・30年度理事・監事候補者の選挙が行われ、平成29年2月27日に監事2名（次点2名）、理事9名（次点2名）が選出され、3月3日開催の平成28年度第4回理事会に報告し、本人承諾の段階に移行している。

2 3. 利益相反委員会

委員長：中村 真人

委員：石原 謙，生田 幸士，木村 裕一，斎藤 逸郎，佐久間 一郎，椎名 毅，清水 孝一，篠原 一彦，杉町 勝，長倉 俊明，成瀬 恵治，野村 泰伸，橋爪 誠，馬場 一憲，三浦 裕正，守本 祐司，山家 智之，山森 伸二，四ノ宮 昇，浅野 薫，緒方 邦臣，深澤 太郎

幹事：石原 謙，篠原 一彦

1) 平成28年度の委員会の構成

2) メーリングリストの作成

3) メーリングリストでのメール協議

「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の改正案に対するメール協議を行った。

意見を取りまとめ中。

2 4. 生体医工学シンポジウム WG 2016 年度の活動報告

2016年9月17日(土)，18日(日)に旭川市大雪クリスタルホール国際会議場において生体医工学シンポジウム2016の円滑な運営を行った。

また、生体医工学シンポジウム2017の開催地、組織委員長を選定した。

さらに、2017年度以降のシンポジウムの開催地等の選考を始めた。

2 5. 他団体との共催・後援・協賛状況（依頼受付順）

(1) 後援

1. 日本学術会議公開シンポジウム「総合工学シンポジウム2016」

2. 第12回日本分子イメージング学会総会・学術集会

3. 第9回MDIC(医療機器情報コミュニケーター)認定セミナー

4. 第27回日本臨床工学会

5. 第92回日本医療機器学会大会

6. 医療ガイドライン活用セミナー

7. ワイヤレス・テクノロジー・パーク 2017

(2) 協賛

1. センシング技術応用セミナー
2. 第 59 回自動制御連合講演会
3. センシング技術応用セミナー
4. 第 59 回自動制御連合講演会
5. 第 37 回日本熱物性シンポジウム
6. 2016 国際シンポジウム マイクロ・メカトロニクスとヒューマンサイエンス及び国際メ
イズコンテスト
7. 2016 年度計算力学技術者 (CAE 技術者) 資格認定事業
8. キャビテーションに関するシンポジウム
9. 第 26 回インテリジェント・システム・シンポジウム
10. 2016 年度 JCOM 若手シンポジウム
11. 第 29 回バイオエンジニアリング講演会
12. 第 40 回 (平成 28 年度) 東京電機大学 ME 講座—先端技術がひらく医療と福祉の未来—
13. 「Joint 17th World Congress of International Fuzzy Systems Association and 9th
International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems」
(IFSA-SCIS 2017)
14. シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2016
15. システム・情報部門学術講演会 2016 (SSI2013)
16. 第 31 回リハ工学カンファレンス in こうち
17. 第 17 回 SICE システムインテグレーション部門講演会
18. HOSPEX Japan 2016 (第 45 回日本医療福祉設備学会 併設展示会)
19. 日本音響学会第 152 回技術講習会「空中超音波センサの基礎と応用」
20. センサ・アクチュエータ・マイクロナノ/ウィーク 2016 次世代センサ総合シンポジウム
21. シンポジウム「モバイル' 17」
22. 第 31 回国際衝撃波シンポジウム
23. 「EU Green Gateway to Japan」プロジェクト
24. 第 28 回「国民の健康会議」
25. バイオメディカル・ファジィ・システム学会第 29 回年次大会
26. 第 29 回自律分散システム・シンポジウム
27. 国際会議「IEEE-SMC2018」
28. 日本磁気学会第 211 回研究会
29. 有限要素法による骨のバイオメカニクス解析入門～理論から応用まで～
30. IIP2017 情報・知能・精密機器部門講演会
31. 6th International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV-17)
7th International Symposium in Computational Medical and Health Technology
32. 平成 28 年度衝撃波シンポジウム
33. The 12th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental
Mechanics

34. 第 15 回ナノテクノロジー総合シンポジウム (JAPAN NANO 2017)
35. ロボティクス・メカトロニクス講演会 2017
36. 第 36 回日本医用画像工学会大会
37. 第 25 回バイオメカニズム・シンポジウム、第 38 回バイオメカニズム学術講演会
38. 第 53 回真空技術基礎講習会
39. 平成 29 年電気学会 電子・情報・システム部門大会
40. 平成 29 年度工学教育研究講演会

事業報告の附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものはない。